

### 公文書館見学ツアーを行いました!!

公文書館では今年度、公民館活動サポートとして施設見学ツアーを行っています。これまでに3館から申し込みがあり、6月16日に第1回の見学ツアーを行い、鬼無里公民館から16の方が参加されました。ツアーは1時間30分。前半は公文書館の役割や概要をスライドを交えて紹介。後半は施設見学で職員以外立ち入ることのできない書庫・収蔵庫や作業室などを回り、貴重な原本や修復作業などをご覧いただきました。当館として初めての試みで不慣れな点もありましたが、参加された方には喜んでいただけたようで「公文書館の整理がすばらしかった。大変な作業ですね」、「郷土のことを深く学びたいと考えることができた」といったご感想のほか、「貴重な資料を利用する人を増やすためにも例えばインターネットで図書館などとリンクをはるなどしたほうがよい」といった貴重なご意見もいただきました。

6月29日には七二会公民館、11月15日には朝陽公民館の皆さんも見学される予定です。

公民館向け見学ツアーは随時受け付けていますので、興味・関心のある公民館関係者の方はぜひお問い合わせください。



熱心にメモをとる皆さん



和紙公園の見学



修復作業の見学

これ  
**日々是文書**  
～スタッフ通信～

#### 【公開資料】

- ・「小田切役場3」(役場文書 26点)
- ・「小田切公民館」(古文書 15点)
- ・「野池家文書2」(582点)
- ・「田口家文書」(505点)



「野池家文書2」は、江戸時代のとても貴重な算学文書です。

#### 【活動記録】

公文書館の専門主事が出向いて行う「出張講座」。5月11日には若槻公民館で「長野市の昭和・平成の歩み」と題し講演しました。約70人の受講生に大変好評でした。また、7月7日には芹田公民館で夜間講座を行いました。

6月9、10日に全国公文書館長会議、6月23日には長野県史料保存活用連絡協議会があり、いずれも館長が出席しました。

### 長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)  
電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051  
HP <http://www.city.nagano.jp/naganoarchives/>  
又は [長野市公文書館](#) で検索  
E-mail [shomu-9@city.nagano.lg.jp](mailto:shomu-9@city.nagano.lg.jp)  
開館時間 午前9時～午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)  
休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日  
年末年始(12月29日～1月3日)

#### こんなときにはご相談ください。

- ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。

【視察】 5月16日上田市総務部の方々が視察にみえました。

【資料撮影】 6月15日～17日まで、国文学研究資料館で真田家文書 33点を撮影しました。

#### 【TV放映】

6月よりインターネットテレビ「愛テレビながの」(<http://itv-nagano.com/contents/art/>)で『ふるさと長野～カイブくんの歴史探訪～』(月1回/全10回)が始まりました。大人から小学校高学年まで楽しめる内容でわかりやすく長野の歴史を紹介しています。是非一度ご覧ください。 試写会の様子



#### 【パネル展のお知らせ】

8月2日～14日まで「ちよっ蔵おいらい館」において『戦後70年15年戦争下の長野市民』を開催します。昨年秋公文書館で大変好評いただいたパネル展です。お見逃しになった方この機会に是非ご覧ください。



工機部内爆弾落下跡



長野工機爆破跡



バケツリレー

# 長野市公文書館便り

●発行日：平成 28年(2016)7月22日 ●発行：長野市公文書館



## こよみも文明開化 旧暦(太陰太陽暦)から新暦(太陽暦)へ

長野市芋井の傳田政子さんから、家に伝わる江戸時代以降の資料640点が長野市公文書館に寄託されました。その中に日本で使用された最後の太陰太陽暦「明治五年壬申頒暦」(旧暦・写真1)と最初の太陽暦「神武天皇即位紀元二千五百三十三年 明治六年太陽暦」(新暦・写真2)がありました。これらの資料は近日中に公開となります。

### 江戸時代まで使用された暦

日本で暦名が最初に見られるのは、『日本書紀』の持統天皇4年(690)11月で、はじめて元嘉暦と儀鳳暦を行う、とあります。いずれも中国の暦です。貞観4年(862)から使用された宣明暦は貞享元年(1684)までの823年間の長期にわたり使用されました。その結果、誤差が2日にもなり様々な支障が出てきたため、暦を改めようとする機運が高まってきました。



写真1 最後の太陰太陽暦 「明治五年壬申頒暦」

貞享元年、渋川春海は自分の観測を生かし、中国の元の授時暦に基づいた貞享暦を作りました。中国との経度差を考慮し京都に合わせて改めた、日本人がはじめて作った暦で、翌2年から施行されました。日食・月食の予報は精度が飛躍的に高くなり、当時のわが国の学問の水準をはるかに超えたものでした。

弘化元年(1844)、オランダの天文書も参考にして作られた天保暦が実施されました。これがわが国最後の太陰太陽暦

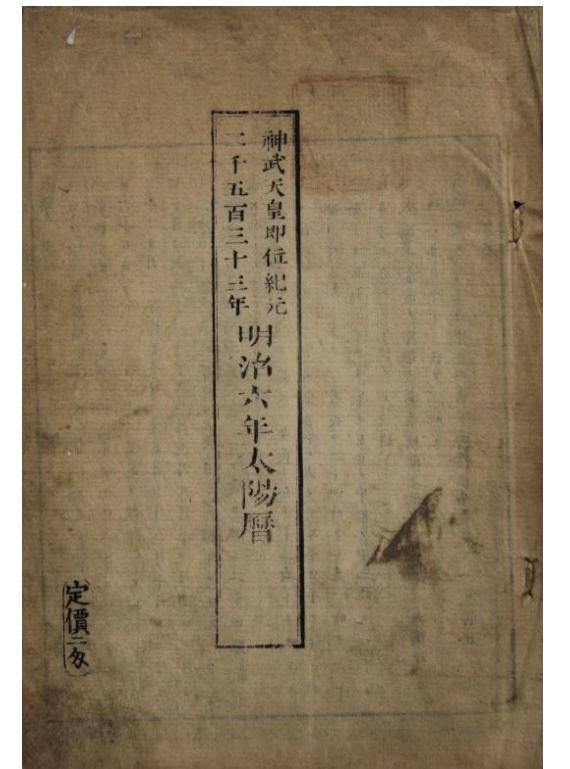


写真2 最初の太陽暦「神武天皇即位紀元二千五百三十三年 明治六年太陽暦」

#### 『市誌研究ながの』23号 好評発売中!!



今回は「真田昌幸・信幸・信繁」についての講演会の収録や、「曹洞宗長野尼僧学林」、「戸隠神社宝光社の建築彫刻」、「浅川と用水の歴史」などの論文・研究レポートを掲載しています。ご希望の方は当館までお問合せください。◇判型:A4版 139頁 定価:1,500円(税込)





写真3 太陰太陽暦(旧暦)の1ページ・2ページ(表紙は1面・写真1)

で、使用されたこの種の暦の中では世界一精密であるといわれています。一般に旧暦というのは、この天保暦のことを指します。

1太陽年は365日余、1朔望月(月の満ち欠けの周期)は29.5日余で1年354日余となり、約11日の差があります。太陰太陽暦では毎年日付と季節がずれていきます。そのため19年に7度閏月を置き、1年を13ヵ月として日付のずれを調節してきました。

### 太陽暦の採用

明治維新で成立した明治政府は、近代化を推進めるために、暦も欧米で広く実施されていた太陽暦(グレゴリオ暦)を採用し、明治5年(1872)12月3日を翌6年1月1日としました。以後、現在に至るまで太陽暦が使用されてきています。

### 伝統的な行事と暦

旧暦から新暦になり、伝統的な行事も新暦に位置づけられて行われるようになりました。桃の節句、端午の節句、七夕、お盆などです。例えば七夕。天の川の両岸の牽牛と織女が、旧暦7月7日に年1日だけ逢えるという星祭で、秋の行事でした。新暦では1ヵ月遅らせて8月7日に行う地域もありますが、暦どおり7月7日に大々的に実施している地域も少なくありません。大概はまだ梅雨の最中で、悪天候の年が多いのです。無情にふる雨は逢えなかった牽牛と織女の涙かもしれません。

古くから人々の間に伝えられてきた行事は、新暦ではなく旧暦にのっとって実施するほうが、その行事の本来の意味を生かすとともに、日本人の季節感覚とふれ合うのではないのでしょうか。

## 資料解説

### 太陰太陽暦(旧暦) (左・写真3)

- ① この暦の元となっているのは弘化元年実施の天保暦です。
- ② 朔望月(月の満ち欠け)に基づいているので、1年は約355日となっています。
- ③ 陰陽五行説にもとづいた、天文・気象・暦・ト占などに関わる情報が記されています。
- ④ 1・3・6・9・11月が小で1ヵ月は29日。2・4・5・7・8・10・12月が大で1ヵ月は30日。したがって明治5年の2月は太陽暦と異なり30日までありました。

### 太陽暦(新暦) (下・写真4)

- ① 太陽の1周は365日5時間48分50秒、365日が太陽暦1年の日数、4年に1度閏年とする、1日を24時間、午前12時間・午後12時間、1時間を60分とすることなどが記されています。
- ② 太陽暦の下段に太陰暦の月日が記され、旧暦と対照できるようになっています。明治5年12月3日が翌6年1月1日になっていることが確認できます。
- ③ 旧暦から新暦になって大きな変化の一つは、歴代天皇の祭典や祭祀の記事が記載されるようになったことです。江戸時代の旧暦にはなかった内容です。明治維新による日本の近代国家としての出発が、天皇制国家としての船出でもあったことを明白に示しています。

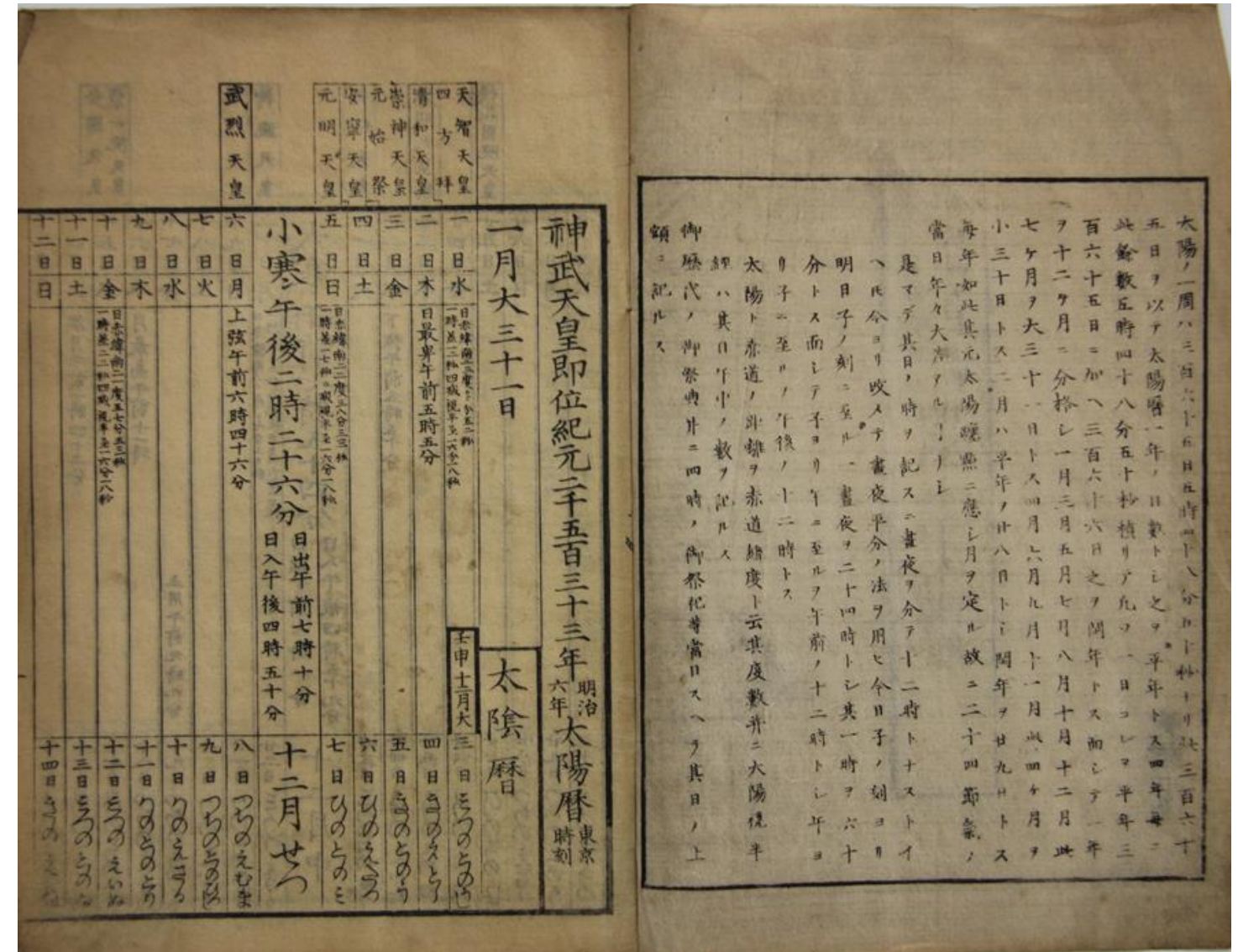


写真4 太陽暦(新暦)の1ページ・2ページ(表紙は1面・写真2)